

平成27年10月10日発行
 特定非営利活動法人
 スロラニ プロジェクト
 ☎655-0049
 兵庫県神戸市垂水区狩口台
 4丁目31-505
 srolanhproject@gmail.com
 080-4766-0790(代表：飯塚)

千ヨムリアップスオご挨拶 NPOスロラニプロジェクト代表 飯塚

いつも、ご支援ありがとうございます。当法人の支援活動も少しずつですが前進してきています。これも、皆様のご支援のお蔭と心から感謝しています。

今回の通信では、9月初めに緊急にカンボジアに飛んだ時のことを中心にお伝えしたいと思います。私たちが微量ながらも支援を継続している障がいを持った子ども達（貧しい家庭）の状況報告です。非常に悲しいご報告もしなければなりません。

つくづく、発展途上国の現状、日本の豊かな生活との違いを思い知らされた出来事でした。だからこそ、私たちの微力ではありますが、小さな団体の小さな支援が大きな力になりうることも実感しました。

私自身の生きる目標ですが「たった一人を救えなければ、支援者とは言えない」ということを再度心に誓い、改めて皆様のご支援の必要性を感じています。ぜひ、これからもご支援よろしく願いいたします。

障がい児支援の現状報告



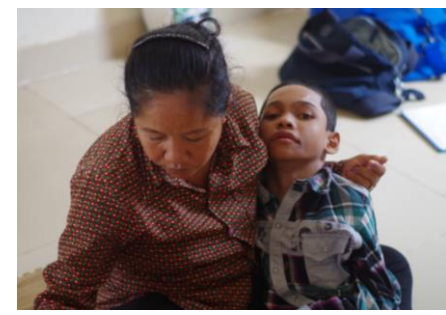
リツ君

リツ君は、10歳の男の子です。生まれた時から心臓の病気がありました。

病名は拡張型心筋症ではなかったでしょうか。日本では、手術により普通の生活ができる病気だそうです。又、足も不自由で歩くことができません。そんな彼に出会ったのは2年程前でした。病気のため、学校へは行けずクリーニングをされているお母さんと兄弟たちと家の2階で外出することなく過ごしていました。急に訪ねてきた日本人にげんな表情で恥ずかしげにしていたことを思い出します。その後訪問の度に、大好きな車の玩具をお土産に持っていくと、本当に大喜びで座った状態でびよびよん跳び上がって喜んでくれました。その後、シムリアップ孤児院センターでのデイサービスを本当に心待ちにしてくれていました。そのリツ君を「状態が悪く緊急に病院に連れて行きました」との連絡が、スタッフのパンナさんから入りました。すぐに翌日(9/5)の便を取りカンボジア王国シムリアップに飛びました。翌日6日、朝一番にアンコール小児病院に行きました。リツ君は、いわゆるICUの個室に酸素吸入器をつけて身をくねらせながら声を上げて唸っていました。日曜だったので医者は不在で、看護師3名が対応していました。苦しんでいるさなかに一瞬、私の顔を確認し、次に車の玩具を確認しました。そして、栄養食を管で挿入した後、急に静か



になりました。パンナさんが、脈をとり、呼びかけ、何かお母さんにつぶやきました。するとお母さんがリツ君に抱きつき泣き叫びました。リツ君は天国に召されたのです。あまりに早い死・・・わたしが会った5～8分後位だった為、私自身、啞然としおろおろするばかりでした。翌日、お葬式に伺うとお母さんから「待ちわびていた飯塚に会えたので満足して天国に行ったのでしょうか。ありがとうございました。」とってくださいました。もっと我々に出来ることがなかったのかと複雑な気持ちと悲しさでいっぱいでしたが、一時でもリツ君が、心待ちにしてくれる私たちの活動であったと思い、リツ君にお別れしてきました。(文責 飯塚)



ソンポー君

ソンポー君と出会ったのは、まだ最近のことです。

彼は、てんかんの発作があり肢体不自由の15歳の青年です。以前はアンコール小

児病院で抗痙攣薬を処方してもらっていましたが、お母様が病気で入院中に通院が途絶え、薬をもらいに行くことができません。現在服薬していないので、時々発作で苦しんでいました。何度か、通院をするようにお話ししましたが、医者には叱られるからと拒否されていました。この度は私も強引に、「一緒についていき何とかするから行きましょう」とお誘いすると、お母様は「じゃ明日行きます」とのことで、翌7日に通院しました。私はパンナ氏と、アンコール小児病院に寄付(100\$)を行う手続きを取りました。アンコール小児病院は、日本のカメラマンが寄付を募って建て、日本の看護師がスタッフの育成を行った、本当に立派な病院です。日本人ということもあるのか、とても好意的に対応していただきました。ソンポー君は、一日かかりましたが、検査、診察、リハビリ(肢体不自由の為)、そして投薬を頂き、無事帰り、お母様も喜んでいました。ちなみにアンコール小児病院は、15歳までは診察は無料。投薬も無料です。行き返りの交通費のみ必要です。(文責 飯塚)

パット君

支援当初からの付き合いのある20歳のパット君です。

アテトーゼ型脳性小児まひで歩行はできません。そして、父母は他界され、つい最近まではアンコールワット遺跡近くに義理の姉家族と同居していました。何故か最近、以前の家に16歳と8歳くらいの妹の3人が元の家に戻っていました。この家は木造でひどい状態です。16歳の姉が、父親が亡くなった当時小学校6年を卒業した時に学校はあきらめ、近くの屋台で皿洗いの仕事を行い、2人を養っています。パット君は、かなり痩せており、父親と同じ結核を疑いました。そして、二人の妹の状態も見過ぎてははいられません。とにかくパット君と妹たちの栄養食を差し入れし、パンナさんにパット君の検査をお願いしました。もしもの場合も考え、パンナさんにも慎重にするように説明の上です。後日、検査の結果、結核も肝炎もないことが判明！！本当にホッとしました。



10月渡航の際には、パット君、妹たちの生活改善と学校の問題の対応をするつもりです。
 一つ嬉しかったことは、隣近所の方々が非常に好意的で、この家族のことを一緒に考えてくださっていることです。(文責 飯塚)



チャンニー君

2015年4月上旬体調不良の為病院に入院しましたが、治療の甲斐もなく、日に日にやせ細っていくチャンニー君の様態と介護の必要なお父さんを家に残している現状を考え、お母さんの強い希望により入院して1週間も経たないうちに自主退院をして最後は生まれ育った家で短い一生を終えました。

入院費用を負担させてもらっていた我々への気遣いも感じられたお母さんの決断と行動。本来ならばチャンニー君が天国に逝った時点で支援終了ですが、家庭の現状を考慮して現在も引き続き、食糧支援を行っています。チャンニー君のご冥福をお祈りします。(文責 服部)

ソペア君、リアサーちゃん、デザイン君、チャリアーちゃん、ビスナーちゃん達も、全員元気に大人の愛情に包まれて過ごしています。



活動報告

2015年3月7日(土)に東播磨地域づくり活動応援事業の一環として東播磨活字文化の会 えんの会主催で「なぜカンボジア?愛すべき子ども達がいる王国」と題してNPO法人スロラニュープロジェクト代表の飯塚の講演会を開催して頂きました。当日はカンボジアに興味がある方や国際協力に関心のある約20名の播磨町に住まれる紳士淑女の方々がご参加して頂き、和やかな雰囲気の中で、講演を終えることが出来ました。講演終了後は、播磨町立図書館に、飯塚の執筆した「なぜカンボジア?愛すべき子ども達がいる王国」を置いて下さることとなり、持参した本も完売しました。えんの会の皆様、貴重な機会を設けて頂き本当にありがとうございました。(文責 服部)



2015年6月21日(日)アスパア明石8階学習室にてスロラニュープロジェクト第一回活動報告会を開催させて頂きました。当日は日頃よりスロラニューの活動を応援していただいている方やカンボジアに興味のある方、約30名の参加者の前で障がい児支援、歯科支援、救急救命講習、井戸支援、そして一緒にカンボジアに行って活動に参加したくなる話等を報告及び情報提供をさせて頂きました。皆様からの感想は本当に有難いもので活動に関して応援のメッセージを全ての参加者の方々から頂きました。ちなみに参加者の皆様についての業種は多岐



にわたり第一線活躍されていた方、また現在も活躍されている方で年齢層も40歳代以上の方が大半でした。来年も第2回報告会を実施できるように充実した支援活動に邁進します。(文責 服部)

2015年9月14日、三木みどりロータリークラブ様からお招きいただき、例会に参加させていただきました。そして、三木みどりロータリークラブ様のご厚意で卓話の時間に当団体の活動紹介を代表の飯塚よりお話しする機会をいただきました。

飯塚からは映像を交えながら先日、天国に旅立ったチャンニー君、リッ君の話を踏まえた上で障がい児支援を中心に皆様に話をさせていただきました。

皆様、真剣に涙ながらに話をする飯塚の話に耳を傾けて下さり、例会終了後、たくさんの方々から寄付をいただきました。皆様からいただいたお気持ちはしっかりとカンボジアに届けたいと思います。(文責 服部)



NPO Srolanh Project お知らせ

☆ホームページが新しくなりました☆

この度、スロラニュープロジェクトのホームページより見やすくリニューアルを行いました!!!

アドレスは変わらず <http://www.srolanh.org/> からご覧いただけます。

Facebookだけでなく、こちらでもよりわかりやすく情報提供ができるよう、内容をさらに充実させて参ります。

今後とも、スロラニュープロジェクトをよろしくお祈りします。



☆私たちのスロラニュー小学校新学期☆

今年のスロラニュー小学校の新学期は11月1日からと現地スタッフのパンナさんから連絡が入りました。10月の現地での支援活動の際に新入生の制服と文房具を購入してきます!!!

現在もスロラニュー小学校は先生方のご尽力で安心して授業が受けられる優しい学校として継続して運営されています。

